佐渡

佐渡支局
〒952-0006
佐渡市春日1143-9
0259(27)2495
(27)4811
ファクス (27)2090

チャレンジ

河崎小 4年
古保(こぼ) 夏来(なつき)

わたしは、今、一輪車にチャレンジしています。

どうすれば一輪車で手を放して行けるか考えてみました。そうしたら分かってきました。一つ目はまずバランスをとることです。二つ目はこわがらずに進むことです。三つ目は上手な友達に教えてもらうことです。この三つを目指してがんばっています。グラウンド1周が目ひょうです。今はジャングルジムにつかまって少しずつ練習しています。

一歩一歩前に進みたいです。

交流の証し残したい

地元の子どもと首都圏の大学生

入桑漁港

首都圏の大学生が、13～17日の5日間、佐渡に滞在し、地元の住民とさまざまな共同作業を通じて交流した。佐渡市羽二生の入桑漁港では14日、学生が地元の子どもたちと協力して、防波堤にトキなどの絵を描いた。

地元の子どもたちと協力しながら防波堤に佐渡をイメージした絵を描く学生＝14日、佐渡市羽二生

防波堤にトキ描く

島外と都市部との交流人口を増やそうと活動するNPO法人「さど」が、東京で開講している「佐渡朱鷺大学」の一環。2年前から佐渡に首都圏の学生を受け入れており、ことしは羽二生、四日町など5地域に約60人の学生が訪れた。

羽二生には8人の学生が滞在。学生らは「地元の人たちと交流した証しを残したい」と、入桑漁港の防波堤に描かれていた絵が消えかけていたことから、新たに佐渡をイメージした絵を描くことを企画した。縦1㍍、横40㍍のスペースに、4年をかけてトキのほか、おけさ柿、棚田などの絵を1年に1枚ずつ、計4枚描いていく予定だ。

ことしは、大空を羽ばたくトキや、太陽がほほ笑んでいる図柄を制作。学生が描いた下書きを基に、地元の子ども6人がペンキで手や顔を汚しながら、丁寧に色づけした。

早稲田大学2年の長島匠さん(20)は「佐渡の人たちには都会にはない優しさがある。その恩返しとして羽二生地区に形として残せたので良かった」と話した。制作に参加した両尾小1年の甲斐一賢(いさと)君(7)は「上手に色をぬれて楽しかった」と声を弾ませた。

学生たちはこのほか、各地で稲刈りや竹林整備に参加し、住民と一緒に汗を流した。

「残念」「再生を」

相川下寺町 参拝者ら落胆

堂焼 もり籠 お全

佐渡のタヌキの大親分「団三郎」を祭り、島内外から信仰を集める佐渡市相川下寺町の二ツ岩大明神のお籠(こ)もり堂が15日の火災で焼失した。お籠もり堂は、参拝者が宿泊などに利用してきた重要な建物だった。本堂への被害はなかったものの、関係者は一様に「残念だ」と話している。

15日の火災で焼失した二ツ岩大明神のお籠もり堂。鳥居の奥に本堂がある＝佐渡市相川下寺町

団三郎は島内に100匹以上のタヌキの部下がいたとされ、アニメ映画「平成狸(たぬき)合戦ぽんぽこ」にも登場するなど知名度は高い。

15日の火災では、木造平屋建てのお籠もり堂約56平方㍍が全焼。佐渡西署は16日、消防と合同で実況見分を行ったが、原因は調査中としている。

地元住民らによると、二ツ岩大明神には昭和40年代ごろまで、農閑期になると熱心な信者が参拝に訪れ、お籠もり堂に泊まることもあった。しかし近年は宿泊者が見られなくなり、建物の老朽化も進んでいたという。

年に数回参拝するという地元の男性(64)は「本堂が残ったのは良かったが、焼失は残念」と落胆。相川地区の地域おこしに取り組む市川求さん(66)＝同

「全

明神

なら

る。

一

指摘

心身

15の

長谷

の小

参加

に挑

禅合

イオ

オク

で4

宝元